

[カンショ]

1. 作付の概況

2009年度の全国の作付面積はほぼ前年並の40,500haで、九州は19,900ha(前年対比1%増)であった。これは全国的に農家の高齢化による労働力不足等で作付けが減少する中、鹿児島県での作付が増加したことによる。全国の10a当たり収量は2,530kgで、前年産との対比で2%上回った。収穫量は1,026,000tとなり、前年産に比べて15,000t(同1%)増加した。10a当たり収量が前年を上回った理由は、鹿児島県、茨城県等でおおむね天候に恵まれ、生育が良好であったためである。

2. 作柄の概況

鹿児島県では、4月から6月にかけて平均気温は平年並みかやや高く推移した。4月には適度な降雨があったことからマルチ栽培での苗の活着は順調であった。5月から9月は平年より降水量が少なく、無マルチ栽培では苗の活着や初期生育がやや遅れたが、日照時間は生育期間を通じて平年より長く、生育は良好であった。マルチ栽培では、上いも個数が多く、収量は平年より多かった。無マルチ栽培では植付期の乾燥の影響を受けて、上いも個数は平年よりやや少なくなったものの、収量は平年並みかやや多かった。以上のことから、本年の鹿児島県の10a当たり収量は2,930kgで、前年産を70kg(2%)上回った。また、収穫量は416,100tで、前年に比べて15,700t(4%)増加した。

宮崎県では生育期間を通じて平均気温は平年より高く推移し、4月から9月にかけて降水量は少なく、10月以降は多かった。植え付け期での苗の活着はほとんど問題はなく、地上部の生育も良好であった。マルチ早掘栽培では、上いも個数も多く、平年より多収となった。一方、無マルチ標準栽培では、品種によっては上いも個数が少なかったため、収量は平年よりやや低収になった。4月植え10月下旬以降掘取りの長期マルチ栽培では、地上部重、上いも個数が平年より多く、多収であった。以上のことから、宮崎県の10a当たり収量は2,840kgで、前年産を130kg(5%)上回った。収穫量は92,600tで、前年に比べて2,100t(2%)増加した。

(九州沖縄農業研究センターサツマイモ育種研究チーム

吉永 優)

2009年度カンショ作付面積と収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較				
				作付面積		10a当たり 収量	収穫量	
				対差	対比	対比	対差	対比
(ha)	(kg)	(t)	(ha)	(%)	(%)	(t)	(%)	
全国	40,500	2,530	1,026,000	△ 200	100	101	15,000	101
九州	19,900			200	101			
福岡	180			0	100			
佐賀	116			1	101			
長崎	532	1,770	9,420	△ 18	97	104	10	100
熊本	1,240	2,330	28,900	10	101	97	△ 600	98
大分	313			0	100			
宮崎	3,260	2,840	92,600	△ 80	98	105	2,100	102
鹿児島	14,200	2,930	416,100	200	101	102	15,700	104
沖縄	253			△ 6	98			

注)平成21年産かんしょの収穫量(農林水産省統計部 平成22年2月9日公表)に基づいて作成
空欄は主産県以外の県で、公表データなし